

天然記念物 日本犬

柴犬・紀州犬・四国犬・北海道犬・甲斐犬・秋田犬に大別される日本犬。家族の一員である愛犬や、散歩先などで見かけるお気に入りの日本犬は、実は国の天然記念物に指定されています。これらの歩く天然記念物を保護する団体として「日本犬保存会」があり、同会が開く展覧会は、天然記念物としての日本犬の特質を保持する役割も果たしています。

本展示では、昭和 30 年代の行政文書から天然記念物としての日本犬の世界を少し覗いてみます。

※途中で展示部分を替えます。

① 天然記念物日本犬展覧会 昭和 30 年度(1955) 県庁戦後 A 県教委 939

山口県教育委員会や日本犬保存会山口県支部等が共催した第 1 回（山口県）日本犬展覧会並びに審査会に関する一件書類です。「日本犬展覧会規則」によると、審査はまず大型犬（牡・牝），中型犬（牡・牝），小型犬（牡・牝）に大別し、さらにそれぞれ成年組，壮犬組，若犬組，幼年犬に細分して行われています。そして、総合入賞犬の中から特に優良と認められた犬には、国の文化財保護委員会に申請して「優良日本犬章」が与えられています。展示部分は、日本犬保存会と日本犬登録協会が定めた「日本犬標準」で、犬の身体の各部位ごとに細かな基準が定められていることがわかります。

② 日本犬関係 昭和 32 年(1957) 県庁戦後 A 県教委 941

山口県日本犬保存会の関係資料を中心に、JSA1956 年度九州地区ジューガー展覧会規定、全犬種総合展覧会 JKC（ジャパン・ケンネル・クラブ）山口県支部展出陳目録、NPDA（日本警察犬協会）西日本チャンピオン決定大審査会チラシなどを綴じた一件書類です。当時の犬の愛護団体や審査会の様子を知ることができます。

③ 天然記念物日本犬 昭和 38 年（1963） 県庁戦後 A 県教委 945

日本犬保存会山口支部と山口県教育委員会が共催した第 10 回（山口県）日本犬展覧会並びに審査会に関する一件書類です。展示部分は、総合第一席に輝いたマリ号（小型犬＝柴犬の牝）を「優良日本犬章」に推挙する際の申請書類の一部です。そこには、名称、生年月日、産地、性別、血統（父母・祖父母の名）、尾型、毛色、体高・体長・体重、調査年月日、所有者住所氏名といった、いわば「個犬情報」が記されています。

